



# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



## ●百日咳について (前編)

2018年1月から、5類全数報告(すべての患者について医師が届出を行う感染症)へ変更になり、小児だけでなく成人患者の動向もわかるようになりました。2018年は熊本市18件、熊本県47件、全国11947件でした。2019年は熊本市では2月13日までに5件の報告があり、生後2か月が2人、4か月が1人と**6か月以下が多く報告されています。**

### ◆どんな病気?

1年中みられますが、春から夏に多くみられます。ワクチン接種をした小児や成人では症状が軽く、持続する咳だけの事も多いので診断が見逃されやすいのですが、咳の開始から約3週間ぐらひは菌の排出があり、**乳幼児にうつると重症化することもあるため、注意が必要です。**

・症状…以下の3つの段階に分けられますが、典型的でない例もあります。発症後、約2～3ヶ月(約100日)ほどで回復します。

①**カタル期**(約2週間持続) 5～10日(最大3週間程度)の潜伏期間後、普通のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。

②**痙咳期**(約2～3週間持続) 顔を真っ赤にしてコンコンと激しく発作性に咳込み(スタッカート)、最後にヒューと音を立てて息を吸う発作(ウーブ)が特徴的です。嘔吐や無呼吸発作を伴うことがあります。一般に熱は無いか微熱程度です。**乳児では重症化することもあり、肺炎、脳症を合併し、特に生後6ヶ月以下では死に至る危険性もあります。**

③**回復期** 激しい発作はなくなりますが、時々忘れた頃に発作性の咳が出ます。

・**感染経路**…病原体は百日咳菌で、鼻、のど、気道からの分泌物による飛沫感染、および接触感染です。

### ◆予防法は?

4種混合ワクチン(ジフテリア・破傷風・百日せき・ポリオ)の予防接種が有効です。定期接種として生後3ヶ月から7歳半までに4回接種することになっています。  
(国立感染症研究所より抜粋)

詳しい情報は熊本市感染症情報をご覧ください



期 間		2019年 5週		2019年 6週	
		1/28～2/3		2/4～2/10 (最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		639	25.56	444	17.76
RSウイルス感染症		7	0.44	10	0.63
咽頭結膜熱(プール熱)		8	0.50	3	0.19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		38	2.38	27	1.69
感染性胃腸炎		72	4.50	59	3.69
水痘(みずぼうそう)		6	0.38	5	0.31
手足口病		5	0.31	5	0.31
伝染性紅斑(りんご病)		5	0.31	2	0.13
突発性発しん		12	0.75	11	0.69
ヘルパンギーナ		0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		14	2.80	19	3.80
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.20	0	0.00